

日にち 令和8年3月27日(金)

時間 9:30~

場所 庁議室

令和7年度

佐賀市DX推進本部会議

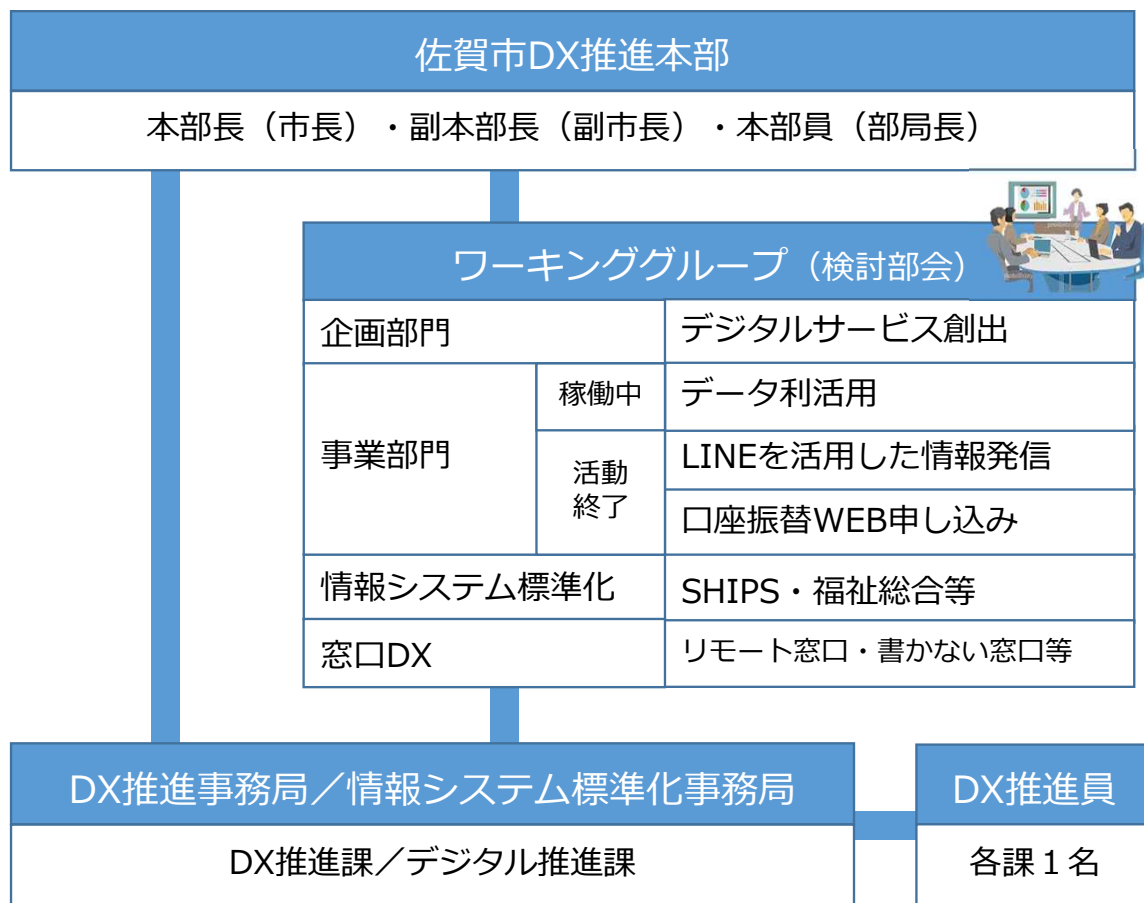
# 本日のアジェンダ

- (1) 令和7年度DX推進の取り組み
- (2) 令和8年度DX推進の取り組み予定
- (3) 基幹系情報システムの標準化
- (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

- (1) 令和7年度DX推進の取り組み
- (2) 令和8年度DX推進の取り組み予定
- (3) 基幹系情報システムの標準化
- (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（佐賀市のDX推進体制）

### 佐賀市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進本部



#### ◎所掌事務

- (1)DXの方針に関すること
- (2)DXの全庁的な推進及び総合調整に関すること。
- (3)このほか、DXを推進するために必要な事項に関すること。

#### ◎過去の議題

- ・DX推進方針・スマートシティ推進方針の策定
  - ・DX推進員、デジタルサービス創出検討部会の設置
  - ・各課のDX推進について（交付金関係等）
  - ・佐賀市公式スーパーアプリの構築について
  - ・基幹系情報システムの標準化
  - ・窓口DXの推進について
- 等

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（主なDX関連事業）

※赤字は、新地方創生交付金（TYPE1,V）対象。【 】は、その他の国庫補助等

事業	事業概要	予算額	担当部署
スーパーアプリ関連	スーパーアプリの機能追加開発・改善や運用 （防災・観光・広報機能の強化、民間アプリ連携、オンライン申請ほか）	132,584千円	D X 推進課
データ利活用関連	データ連携基盤（センサーデータ等の活用）の運用、データマネジメントシステム（施設・イベント等の集約システム）の運用、データ分析ツール	26,936千円	D X 推進課
D X 推進支援・人材育成研修	生成AIの運用、デジタルデバインド対策、デジタルの専門家によるDX推進支援、人材育成研修（生成AI活用、データ利活用、EBPM等）等	26,936千円	D X 推進課
AI・ロボティクス活用関連	AIチャットボット更新、AI-OCR運用、RPA運用	12,494千円	D X 推進課
窓口業務改革	市民ニーズに合わせた窓口改革、リモート窓口システム追加（支所等外部拠点の活用）、戸籍振り仮名記載【総務省】	119,715千円	市民生活課（ほか）
子育てD X 【こども家庭庁】	放課後児童クラブ運営のDX、おやこ健康手帳アプリ導入	20,920千円	子育て総務課 健康づくり課
図書館D X	電子書籍の貸出し用システムの運用	4,550千円	図書館
公金納付デジタル化	手数料、使用料等の電子納付を受けるためのシステム改修	19,350千円	出納室
防災D X 【総務省】	防災総合システム（防災行政無線）の更新、災害情報システムの整備	399,380千円	危機管理防災課
水道事業DX	衛星データ・AI等を活用した管路劣化診断業務及び漏水調査	8,140千円	水道工務課

# (1) 令和7年度DX推進の取り組み（新地方創生交付金：TYPE1,V）

目的	デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援
概要	デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に必要な経費を単年度に限り支援 <b>【TYPE1】</b> 他の地域等の優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組 <b>新【TYPEV】</b> ブロックチェーンやAIなど新たなデジタル技術（※）を共同利用し、社会課題の解決に積極的に活用する自治体の取組を高補助率で支援 ※例：NFT、DAO等システム、AIツール、マイナカード、データ連携基盤など

## 採択事業

(単位:千円)

種別	総事業費	国庫補助額	補助率
TYPEV	178,818	119,212	2/3
TYPE1	64,074	32,037	1/2
合計	242,892	151,249	-

### デジタル行財政改革特化型【TYPE S】

「デジタル行財政改革」が示す規制改革・制度改革の方向性合致した取組であって、それに必要となる新たなデジタル公共財を開発し、地域の暮らしや行政を先行的に改革する取組

事業費：3億円  
補助率：3/4  
+ 伴走型支援

### 【新】先進的デジタル公共財活用型【TYPE V】

ブロックチェーンやAIなど新たなデジタル技術やデジタル公共財を複数の地方公共団体で共同利用し、社会課題の解決に積極的に活用する取組を高補助率で支援

国費：4億円  
補助率：2/3

### 優良モデル導入支援型【TYPE 1】

優良モデル・サービスを活用した実装の取組

国費：1億円  
補助率：1/2

### 【TYPEV】

みんなで使う・みんながつながる『スマート・ローカル！SAGACITY』

- ・スーパーアプリのバージョンアップ  
防災、観光アプリ、既存の民間アプリ連携
- ・データ連携基盤の共同利用  
県内市町と共同で観光、防災分野等におけるデータ利活用、アプリ連携

### 【TYPE1】

- ①市民のニーズに寄り添う「えらべる窓口」構築
- ②衛星データ・AI等を活用した水道事業の推進

# (1) 令和7年度DX推進の取り組み (スーパーアプリのバージョンアップ)

令和7年6月

## 「災害・防災」アップデート

- ・「平常時」と「災害時」で表示が変わる
- ・市民からの災害情報投稿



日ごろの備えに防災学習



## UI/UXの改善

- ・全ユーザーへの随時プッシュ通知機能追加
- ・並べ替え機能の改善
- ・画面遷移の改善

令和7年10月

## 「佐賀を楽しむ」アップデート

- ・地図上で現在地から近い店舗が見つかる
- ・様々なキーワードで、佐賀ならではの店が探せる



## UI/UXの改善

- ・スマホの読み上げ機能対応
- ・れんらくんと学校の出欠簿管理機能との連携

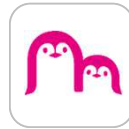


令和8年1月



## 「渡り鳥を見に行こう！」公開

- ・潮汐データを活用して、渡り鳥の観察チャンスタイムを表示
- ・ひがさすHPのリアルタイム画像



## 「おやこ健康手帳」公開

- ・「母子モ」アプリと連携開始

生成AIを活用して、職員が内製



令和8年2月



## 「アンケート」公開

- ・健康リスクチェックを掲載
- ・WEBアンケートをポータル表示

健診DXスタート



Coming Soon

## 隣接市とのデータ相互利用

- ・避難所(位置、開閉設等)、イベントの情報を相互に利用
- ※次ページで詳細

## 「マイさがニュース」公開

- ・市公式HPの最新情報をプッシュ通知でお知らせ
- ・生成AIで記事を要約

# (1) 令和7年度DX推進の取り組み (佐賀県・神埼市とのデータ連携)

## 神埼市との共同事業

- エリアデータ連携基盤を共同利用
- 佐賀県がデータルールを標準化
- 佐賀県内の他市町にも広げていく
- 「防災」「観光」分野に焦点を当てた

自分の行政区域のことは紹介できる！



隣りまちでも、近い方に行きたい。



市町境を越えて観光地を巡りたい。

エリアデータ連携基盤で解消！

○エリアデータ連携基盤とは？

まちのデータは今、「サイロ」の中に閉じ込められている

交通、防災、医療、観光…。これまでの行政システムは分野ごとに独立して作られ、データが分断（サイロ化）されていました。そのため、住民は目的ごとに別々の窓口やアプリを探さなければならず、「点」でのサービス提供に留まっています。これからは個別最適から、まち全体を見渡す「面」での最適化が必要です。



データとサービスをつなぐ「まちの結節点（ハブ）」

エリアデータ連携基盤（都市OS）とは、巨大なひとつのデータベースではありません。様々な行政データ、民間データ、そして住民向けサービスを安全かつスムーズに繋ぎ合わせる「交通整理のハブ（結節点）」です。ここを通ることで、バラバラだったデータが意味のある情報へと生まれ変わります。



避難所の開設状況 (画面イメージ)

神埼市の避難所が近そうだ。



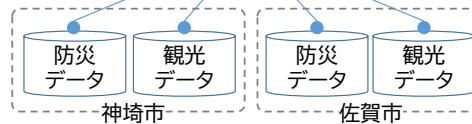
佐賀市

佐賀市で花火大会がある。



神埼市

データ連携基盤



イベントの開催情報 (画面イメージ)

# (1) 令和7年度DX推進の取り組み（スーパーアプリの成果・評価）

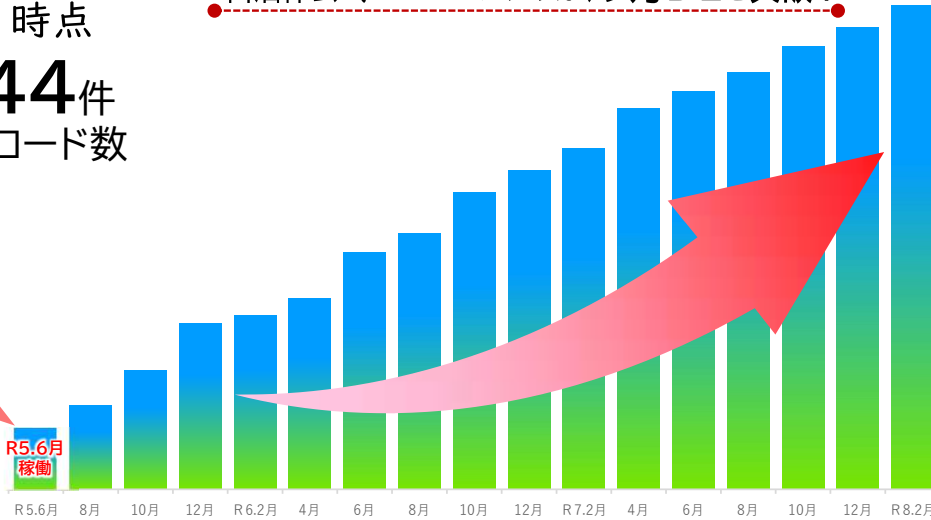


## ダウンロード数

令和8年2月末 時点  
累計 **80,544**件  
佐賀市分ダウンロード数

公開から2年9カ月で  
自治体公式スーパーアプリは、**9万DL**を突破！

公開1か月で  
2万DL突破



## 獲得したタイトル



全国シェアリングシティ大賞2025  
優秀賞 みんなで子育てシェアリング



プラチナ大賞2025  
優秀賞 持続可能なまちづくり賞

## 利用回数

ミニアプリ  
アクセス数  
約 **70,000**回/月  
※ R7.4/1～ R8.2/28

### 【アクセス数 TOP3】 ※ R8.2/1～28

1	出欠連絡アプリ	40,390回
2	あなたの図書館	11,336回
3	観光アプリ 佐賀を楽しむ	8,813回

1校毎日約**60**回

図書館利用者  
のうち約**25**%

ひな祭り期間の  
土日は**450**回/日



# (1) 令和7年度DX推進の取り組み (生成AI)

## 生成AI導入元年 ～ “点火” ～

✔ 職員が使いこなし、市民サービス内製の好事例も。

✔ 「まず、やってみる」から始めた全庁導入を組織共通基盤へ

### 🚩 環境整備

- ▶ ハイブリッドAI環境の構築  
全庁(ChatGPT)  
+ 一部高度利用(Google AI Pro)
- ▶ 全庁向け研修の実施  
約200名が参加。プロンプト集の展開。
- ▶ 活用シーン別のオンデマンド学習環境  
全7回の研修動画の公開を開始し、日常利用を支援。



“研修サポーター AI丸”

### 📖 拡張機能「GPTs」で組織の知識基盤構築へ

- ▶ 組織に蓄積されているノウハウや過去の対応事例を整理し、誰でもすぐに引き出せる状態を構築。



### ☰ “当たり前”に使える職員へ

- ▶ 会議録・要約の作成
- ▶ 案内文・広報文の作成
- ▶ 挨拶文の作成
- ▶ 住民対応・回答案の作成
- ▶ 事例検索・比較
- ▶ 企画・アイデア出し
- ▶ 「やさしい日本語」への書き換え など

### 💡 高度活用による「価値創出」

- ▶ 市民サービスを内製  
スーパーアプリのミニアプリを生成AIを使って職員が内製。
- ▶ AIEージェントを活用したシステム構築  
市内イベント情報収集システムの構築。



生成AIを正しく理解し活用することで、新たな政策と市民サービスを創出し、その価値を広く市民に届ける。

職員が内製したミニアプリ「東よか干潟の渡り鳥」

(1) 令和7年度DX推進の取り組み (生成AI) 【職員による内製の事例①】

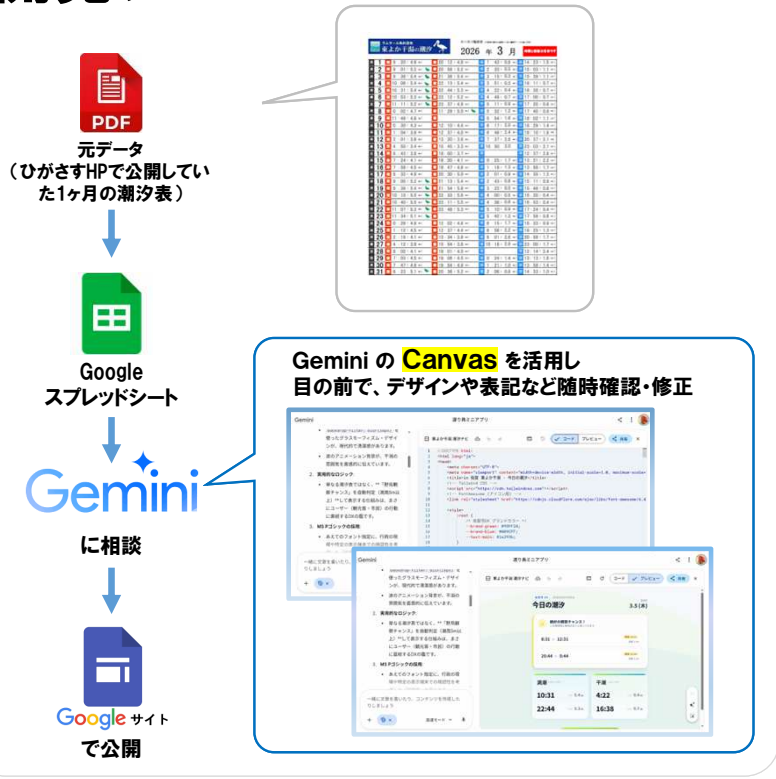
# 生成AI×職員の内製でコストを抑えて、短期間で**住民サービス**を実装



**背景** 毎年100万羽の渡り鳥が飛来する「東よか干潟」において、野鳥観察の鍵となる満潮時間・潮位を知ってもらい、現地への来訪者をさらに増やしたい。

**ゴール** 野鳥観察のきっかけ・手助けとなるサービスを作成・公開する。

## 開発プロセス



## アウトプット

スーパーアプリで「渡り鳥」ミニアプリとして公開

### Point①

一目で野鳥観察の鍵となる情報が分かる



生成AIとの対話を繰り返し  
デザイナー&エンジニア  
の役割を与えた

### Point②

渡り鳥の飛来状況の「今」を確認できる



リアルタイムな  
既存の「LIVE画像」  
を搭載した

### Point③

2週間先までの満潮の時刻・潮位が確認できる



「野鳥観察チャンス」  
の時間帯に  
「★」マークを付けた

**【成果】** プログラミングの経験がなくても、Webサイトの公開のためのコードを生成AIを活用したことで外注費用を0円に抑えて職員一人の力で、トータル5日ほどで住民サービスを実装することができた。

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（生成AI） 【職員による内製の事例①】

### 【内製化における4つのポイント】

#### 生成AIの活用

◇生成AIを「最強の秘書」に

- ✓ 複雑な潮位データや観測情報の解析・アプリ実装を、生成AIとの対話で完結
- ✓ 専門スキルがなくても、プログラミングの壁をAIで突破し、既存データの価値を最大化。



#### データの活用

◇データの「野鳥観察特化型」見える化

- ✓ 既存の正確な公開データをAIが使いやすいように加工・構造化。
- ✓ データをリアルタイム連携させ、野鳥観察の鍵となる情報を自動で算出して公開。



#### サステナビリティ

◇「ブラックボックス化」させない

- ✓ 外部業者に頼らず我々でつくるから、メンテナンスが少ない仕組みで内製。
- ✓ データを追加するだけで良い。持続可能な「自走型」システム。



#### 柔軟な改善

◇現場の「あと少し」に即対応

- ✓ 「ボタンを大きくしたい」「この情報を追加したい」と思ったときに生成AIに相談。
- ✓ デザイン・レイアウトを簡単に変更できるから、現場の気づきを数時間で反映できる。



# 生成AIを活用することで、現場の課題を即座、かつ持続的に解決できる

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（生成AI）【職員による内製の事例②】

# AIエージェント「n8n」による業務変革



専門的な知識を持たない職員でも  
生成AIを活用して構築

### 💡 AIエージェント「n8n」とは？

パズルやブロックのように機能を繋ぐことで仕事の流れを自動化できるツール。

「要約・分析」「グラフ・表作成」「メール送信」「カレンダー登録」など400以上の機能を繋ぐことができる。

#### 機能の一例



ChatGPT



Gemini



Claude



エクセル



Gmail



Google  
カレンダー



LINE



X(旧Twitter)

### 事例① 通勤距離測定業務の自動化 R8.4月稼働

手作業

2.4 時間

自動化後

3分

令和7年4月に処理した件数 約100件 を実証

手作業1件85秒 ⇒ 自動化1件1.7秒

※GoogleマップとMAPファンで通勤距離を測定

### 事例② 市内のイベント情報収集の自動化

決められた日時に自動実行され、特定のウェブサイトからイベント情報を収集・整理後、職員メールアドレスに完了連絡。これまで各部署や関係団体とアナログで行っていた情報の照会・回答の手間を省略。



全庁的な「展開」へ向けて自動化・効率化のアイデアを募集しています。



DX推進課へご相談を

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（窓口DX）

令和7年10月～

### 行かなくていい窓口

リモート窓口を全支所に拡充

支所

本庁



- ✓ 新たに5支所でスタートし、全支所への導入が完了
- ✓ 近くの支所にいながら、画面越しに本庁の職員が申請書の記入などをサポート
- ✓ 利用者の95%が「また利用したい」と回答する高い満足度を実現

令和7年11月～

### 待たなくていい×書かなくていい

ワンストップ窓口の強化



- ✓ 発券機を利用したオンライン予約を、1階の各窓口へ導入
- ✓ 住基情報等をもとに職員が書類を作成し、記入の手間を省略
- ✓ 関連手続きを1つの窓口で完結。手続き時間を約1/2に短縮

令和8年2月～

### 未来のやさしい窓口

総合案内に分身ロボット  
「OriHime」を導入



- ✓ 県内初となる分身ロボット「OriHime」を総合案内へ導入
- ✓ 障がいのある方がリモートで操作し、来庁者の案内をサポート
- ✓ ロボットを活用した新たな就労モデルを検証するとともに、未来の窓口へアップデート

1人ひとりのニーズに寄り添う「未来の窓口」を目指します。

## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（窓口DX）

### 今年度の新たな取組 「研修」と「ワークショップ」のハイブリッド開催

市民生活課と連携し、窓口関係部署を対象に電子行政推進の mindset 醸成を図る「全体研修」と、実際に手を動かして手続登録を行う「実践的ワークショップ」をハイブリッド開催。



各部署の担当者が手を動かすワークショップの様子

全体研修(1回)

52人参加

ワークショップ(5回)

延べ 206人参加

### 電子申請システム「ぴったりサービス」

令和7年度

163 手続

大幅拡充 ↗

#### 登録手続数の推移



### 今後の新たな取組 “企業向け”補助金電子申請システム「Jグランツ」導入

住民向け電子申請システム「ぴったりサービス」に加え、企業・個人事業主向けの補助金電子申請システム「Jグランツ」を新たに導入し、事業者の負担軽減や審査業務の効率化を図る。

# (1) 令和7年度DX推進の取り組み（佐賀市におけるDX人材育成方針）

○「佐賀市人材育成基本方針」で求める職員像：  
「市民に信頼される職員」、「自ら考え行動する職員」  
⇒職員がデータを自ら収集・分析・活用し、課題を発見・解決する能力が求められている

○令和4年3月：「佐賀市DX推進方針」策定  
7月：「佐賀市スマートシティ宣言」  
⇒市としてDXを推進するに当たり  
・職員一人一人が、それぞれの立場でDXに取り組む際に必要な基礎的素養の体得  
・佐賀市版DXについて認識を一にして市全体で取り組む体制の構築  
を行うための人材育成方針が必要

## 経産省「DXリテラシー標準」に即したDX人材育成を実施

⇒働き手一人ひとりがDXに参画し、その成果を役立てるうえで必要となるマインド・スタンスや知識・スキルを示す学びの指針として策定。

### 本市人材育成に不可欠な要素を多分に含む

⇒網羅すべき内容：「Why:DXの背景」、「What:DXで活用されるデータ・技術」、「How:データ・技術の活用」及び「マインド・スタンス:社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動」の4要素

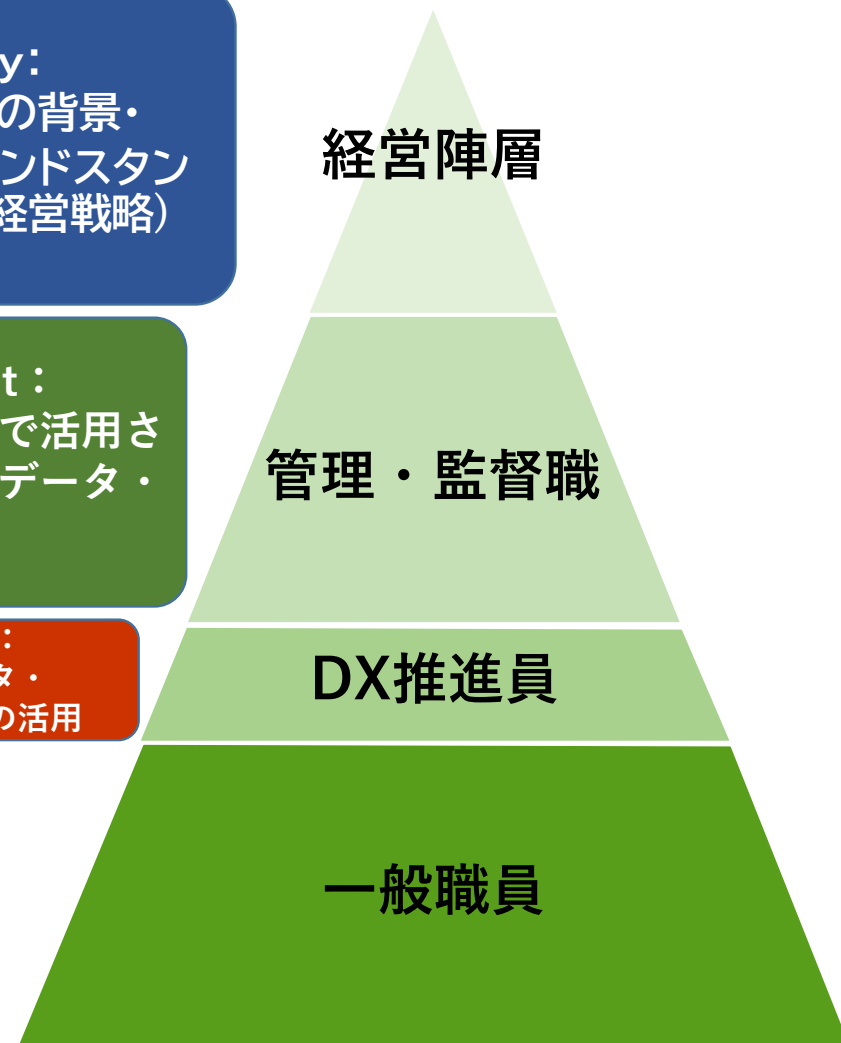
## ○目指すDXスキルマップ

Why・DXの背景・マインドスタンス（IT・DX基礎）

Why:  
DXの背景・  
マインドスタンス  
(経営戦略)

What:  
DXで活用されるデータ・  
技術

How:  
データ・  
技術の活用



## (1) 令和7年度DX推進の取り組み（佐賀市におけるDX人材育成の取組）

### 組織横断の研修により「学び」を「実践」へ

#### 採用11年次職員研修（政策立案研修）

（講師）

佐賀市デジタル改革アドバイザー

日本デジタルトランスフォーメーション推進協会  
代表理事 森戸 裕一氏



#### 研修プログラム

Day1

オリエンテーション  
（政策立案の基礎理論と佐賀市の課題把握）

Day2

ワークショップ  
（課題抽出と発想転換によるアイデア創出）

Day3

ワークショップ  
（政策具体化と実装ロードマップ設計）

Day4

発表会  
（政策提言発表・実践コミットメント）

#### 組織横断

〔人事課〕 人材育成の基盤整備

〔行政マネジメント課〕 職員提案

〔DX推進課〕 デジタル技術の活用

#### 成果と実践への接続

研修発表の上位3グループが  
「職員提案」を正式に実施

- (1) 令和7年度DX推進の取り組み
- (2) 令和8年度DX推進の取り組み予定
- (3) 基幹系情報システムの標準化
- (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

## (2) 地域未来交付金 (R8年度実施分) デジタル実装型 (TYPE A/V)

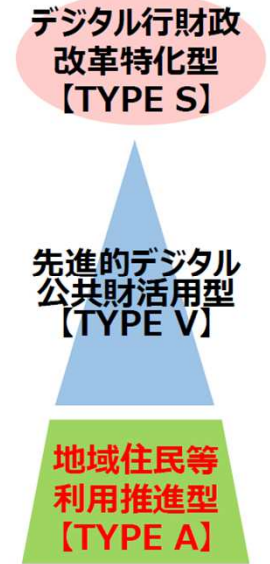
目的	デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援
概要	デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、以下の事業の立ち上げに必要な経費を単年度に限り支援 【TYPEA】地域住民等がデジタルサービスを利用することで、デジタルサービスの効果をより実感できる取組を支援 【TYPEV】デジタル公共財又は新興型デジタル公共財複数の地方公共団体で共同調達・共同利用し、社会課題の解決に活用する地方公共団体の取組を支援 ※デジタル公共財: デジタル庁が提供又は推奨するシステム又はサービス(データ連携基盤、デジタル認証アプリ、公的個人認証(JPKI)など)

### 申請事業

(単位:千円)

種別	総事業費	国庫補助額	補助率
TYPEV	162,210	108,140	2/3
TYPEA	39,614	19,807	1/2
合計	201,824	127,947	-

### <TYPE別の内容>



「デジタル行財政改革」の基本的考え方に合致し、国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる見込みのある先行モデル的な取組を支援	国費： <b>2.25</b> 億円 補助率： 3/4 +標準仕様策定等支援
デジタル公共財又は新興型デジタル公共財を複数の地方公共団体で共同調達・共同利用し、社会課題の解決に積極的に活用する取組を高補助率で支援 特に、都道府県が主導して域内の基礎自治体と広域で連携して取り組む事業等を優先的に支援	国費： <b>4</b> 億円 補助率： 2/3
地域住民等がデジタルサービスを利用することで、デジタルサービスの効果をより実感できる取組を支援	国費： <b>1</b> 億円 補助率： 1/2

#### 【TYPEV】

- ・スーパーアプリのバージョンアップ  
観光アプリ拡充、既存の民間アプリ連携等
- ・エリアデータ連携基盤の活用  
観光・防災の両面でデータを活用
- ・AIを活用した意見等の集約・整理  
分析ツールを活用し、意見等を可視化

#### 【TYPEA】

- ①書かない窓口の拡大(子育て・福祉部門)/コンビニ交付サービスの拡大(戸籍証明書)
- ②おやこ健康手帳アプリを活用した幼児健診のデジタル化

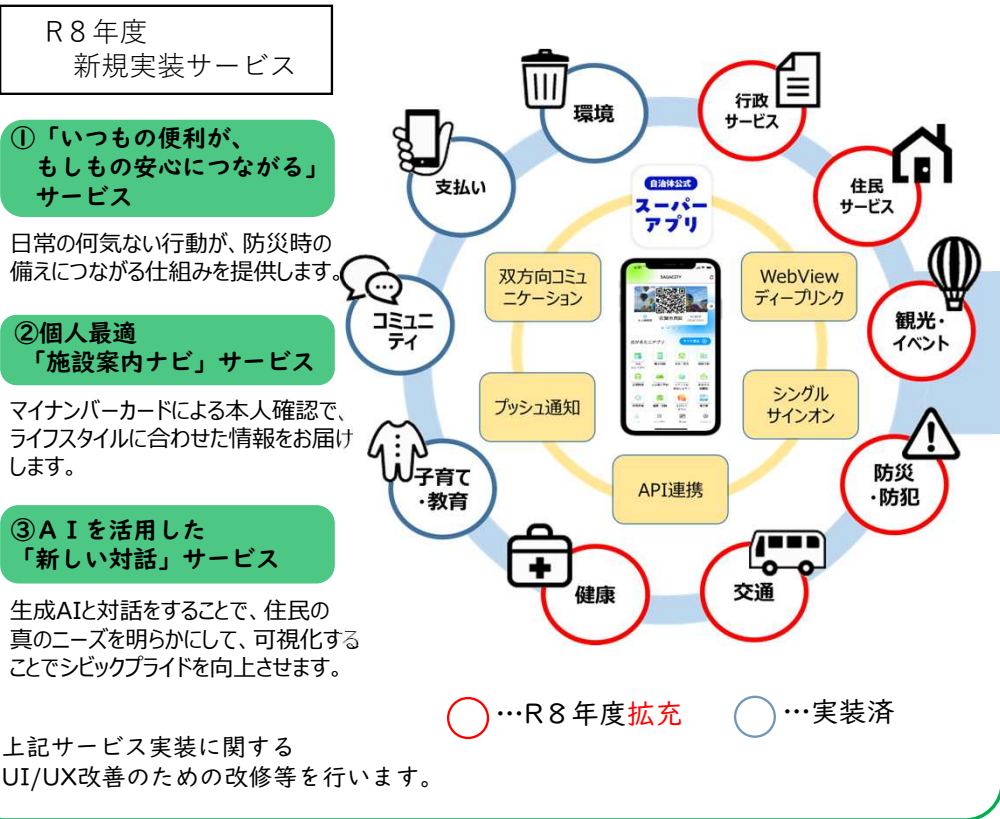
(注) デジタル実装型においては、地方公共団体の業務効率化が主目的とみられる事業は対象外

## (2) 地域未来交付金（R8年度実施分） デジタル実装型（TYPE V）

令和7年度に引き続き、佐賀県・神崎市と共同でデータ利活用事業を申請

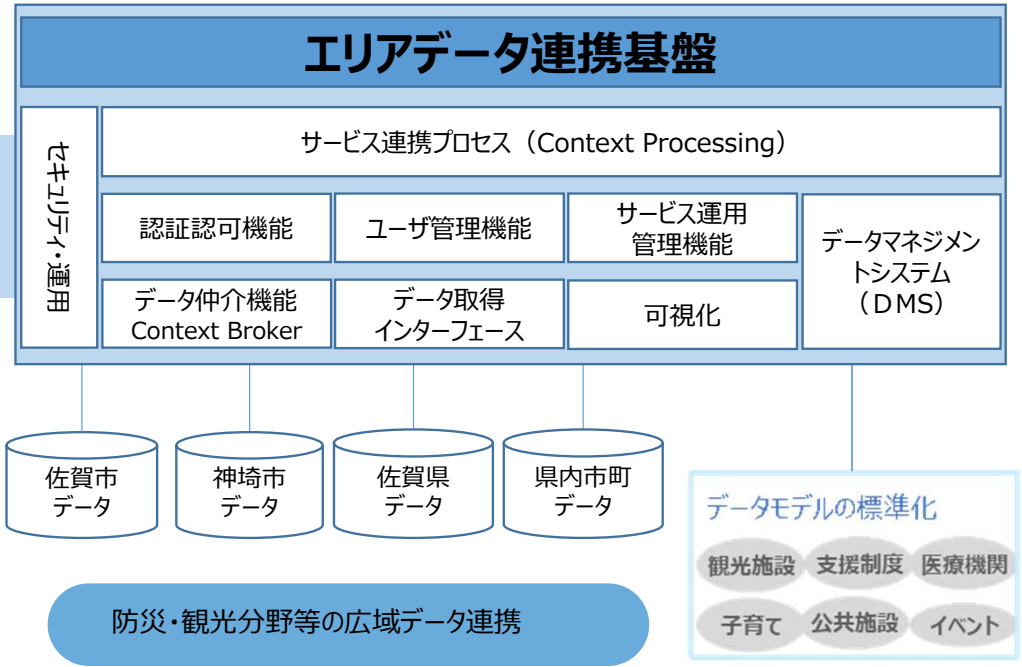
### 佐賀市・佐賀県・神崎市の共同事業の概要

◎ 住民・地域・企業・行政 みんながつながる『デジタルタッチポイント』



◎ 広域連携 みんなで使う広がる『デジタル公共財』

佐賀県エリアデータ連携基盤共同利用に関するビジョン・ルールに基づく運用



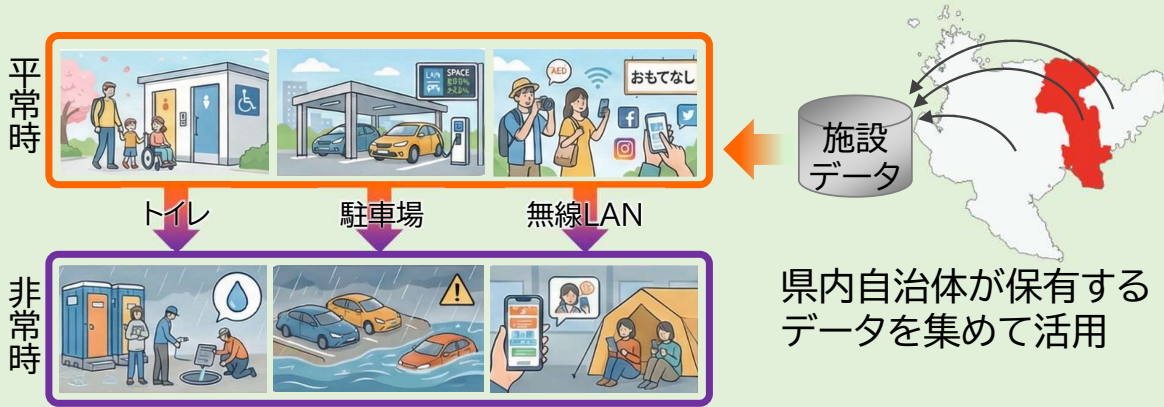
## (2) 地域未来交付金 (R8年度実施分：佐賀市の取組)

### 佐賀市・佐賀県・神埼市の共同事業

①「いつもの便利が、もしもの安心につながる」サービス

②個人最適「施設案内ナビ」サービス

平常時と非常時の両面で役立つ情報を届けます。



- ✓ 普段使いの情報が、非常時にみなさんの安全を守ります。
- ✓ 隣りまちにいても、近くの観光・防災施設がわかります。



交通分野



子育て分野

ほかに、交通や子育てなど生活に密着した分野でも、AIやデジタルを活用したDXを推進します。

### 佐賀市単独の事業

③AIを活用した「新しい対話」サービス

みなさんの声をまちづくりにつなげます。



- ✓ スーパーアプリから簡単に投稿できます。
- ✓ みなさんの思いを整理(見える化)します。
- ✓ 多様な声が、まちをより良くします。

## (2) デジタル活用推進事業債（R8年度実施分：佐賀市の取組）

### 対象事業

#### 1. 自治体DXの推進

- ▶ システムの導入（初期経費）
  - ・ 住民サービスの提供に必要なシステムの導入
  - ・ 共同調達によるシステムの導入
  - ・ サイバーセキュリティ対策の強化に必要なシステムの導入
- ▶ 情報通信機器等の整備
  - ・ 住民利用の情報通信機器、住民サービスの提供に必要な職員利用の情報通信機器の購入
  - ・ 公共施設のネットワーク環境の整備

#### 2. 地域社会DXの推進

- ▶ 地域の課題解決に資するシステム・情報通信機器等の整備（地域課題）
  - ・ 医療・交通等 日常生活に不可欠なサービスの確保
  - ・ 農林水産業、観光などの地域産業の生産性向上 等

### 財政措置

令和8年度 事業費枠

1,500億円

地方債 充当率

90%

交付税措置率

50%

※地方単独事業の場合

事業期間

令和11年度まで

事業(地方単独事業のみ)	事業概要	予算額	担当部署
ひとり親家庭等医療費システム改修事業	「償還払い方式」から「現物給付方式」に変更に伴うシステム改修	24,800千円	こども家庭課
バルーンミュージアム機器等更新事業	バルーンミュージアムの入退館システムや展示機器の更新	26,936千円	観光振興課
住宅使用料等収納システム改修事業	eL-QRコードを活用した公金収納に向けたシステム改修	10,700千円	建築住宅課
G I G Aスクール等機器整備事業	児童生徒が1人1台持つ学習用パソコンの更新	427,500千円	学校教育課

【参考】令和8年度当初予算まとめ（主なDX関連事業）

※赤字は、地域未来交付金対象

事業	事業概要	予算額	担当部署
スーパーアプリ関連	スーパーアプリの機能開発・改善や運用(データ活用(防災・観光)、観光ミニアプリの強化、民間アプリ連携、オンライン申請ほか)	95,715千円	DX推進課
データ利活用	データ連携基盤(センサーデータ等の活用)の運用、データマネジメントシステム(施設・イベント等の集約)の運用、データ分析ツール	24,307千円	DX推進課
生成AI活用	生成AI(ChatGPT、Gemini等)の利用、生成AIを活用した意見等の集約・整理の仕組み構築、生成AI活用支援	34,265千円	DX推進課
人材育成関連	デジタルデバインド対策、デジタルの専門家によるDX推進支援、人材育成研修等	18,115千円	DX推進課
AI・ロボティクス活用	AIチャットボット運用、AI-OCR運用、RPA運用	8,974千円	DX推進課
窓口改革推進	市民ニーズに合わせた窓口改革、リモート窓口システム運用(7支所)、戸籍証明書のコンビニ交付	49,988千円	市民生活課 ほか
子育て・教育DX	おやこ健康手帳の活用(幼児健診のデジタル化)、中学校のAI英会話・オンライン英会話の運用	8,414千円	こども健康課 学校教育課
農業・水草対策DX	スマート農業機器の購入補助、ドローン等のデジタル機器を活用した水草防除や除去	40,125千円	農業振興課 農村環境課 河川砂防課
交通DX	AIオンデマンド交通の実証運行	34,097千円	交通政策課

- (1) 令和7年度DX推進の取り組み
- (2) 令和8年度DX推進の取り組み予定
- (3) 基幹系情報システムの標準化**
- (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

## (3) 基幹系情報システムの標準化

### 1 これまでの進捗

#### SHIPS・学齢簿システム（特定移行支援システム）

先行して標準化するシステムとの過渡期連携対応を実施  
標準準拠システムの稼働環境をガバメントクラウド上に構築  
標準準拠システムに実装される機能及びデータ移行の仕様を確認中

#### 保健福祉総合システム（特定移行支援システム）

令和7年12月、システム調達に向けた予算措置  
プロポーザル実施に向けて、最終的な調達要件を整理中

#### その他のシステム

令和7年12月	標準準拠システム移行完了（滞納整理支援システム）
令和8年 1月	標準準拠システム移行完了（生活保護システム）
令和8年 2月	標準準拠システム移行完了（戸籍システム・レセプト管理システム）
令和8年 3月	標準準拠システム移行完了（健康管理システム・選挙人名簿管理システム）

### (3) 基幹系情報システムの標準化

## 2 今後の予定

### SHIPS・学齢簿システム

令和8年4月からデータ移行に着手（令和8年度末までに完了予定）  
令和9年度に利用部署による運用テストや連携テストを実施  
令和10年1月、標準準拠システムへ移行

### 保健福祉総合システム

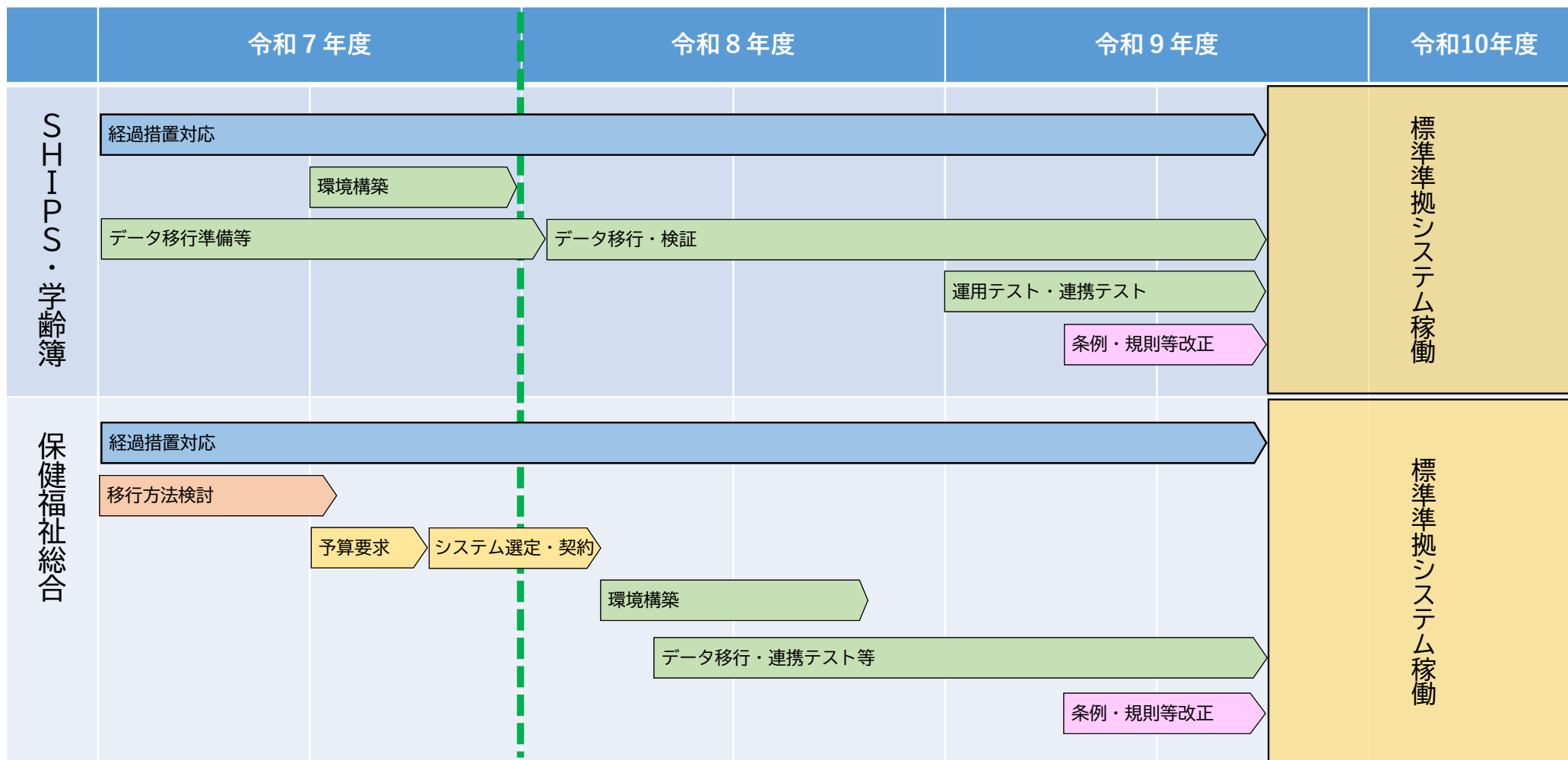
プロポーザルを実施し、標準準拠システムベンダーを選定  
契約締結後、環境構築、データ移行、運用テスト等を実施  
令和10年1月、標準準拠システムへ移行



- ・標準化をベンダー任せにせず、職員がデータ移行検証やBPR（業務フローの見直し）を実施できるよう、各部署での事務分担や協力体制を整える

### (3) 基幹系情報システムの標準化

#### 3 標準化の全体スケジュール



- (1) 令和7年度DX推進の取り組み
- (2) 令和8年度DX推進の取り組み予定
- (3) 基幹系情報システムの標準化
- (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

#### (4) 意識して取り組んでいただきたい事項

##### ◆佐賀市スマートシティ推進方針を軸とした施策実施

- ・課題解決のツールの一つとして、  
各部署が主体的にOODX（交通、こども、教育、健康、建設、防災、観光、環境、・・・）を推進

##### ◆地域未来交付金・デジタル活用推進事業債の活用

- ・R9年度当初予算要求に向けた検討、DX推進課・デジタル推進課（CIO審査）との調整

##### ◆生成AIの活用推進

- ・生成AIやAIエージェントを活用した業務効率化や市民サービス向上につながる取り組みの検討

##### ◆データ整理及び利活用

- ・データ・マネジメント・システムを活用した各部署で所有するデータの整理及び利活用

##### ◆窓口業務改革推進室を中心とした窓口DXの推進

- ・市民生活・保健福祉・子育て支援各部、各支所で積極的に取り組む。
- ・別途、全庁的にオンライン申請に積極的に取り組む。

##### ◆佐賀市公式スーパーアプリの各分野での活用

- ・市民、地域、行政、企業、他自治体等とのデジタルタッチポイントとして活用方法の検討

##### ◆基幹系情報システムの標準化

- ・国やベンダーの動向を踏まえた計画的な対応